

H.C.R.2025報告

1

オープニングセレモニー

10月8日(水)9:40～



村木 厚子 全国社会福祉協議会会長



除幕式では記念のモニュメントを披露

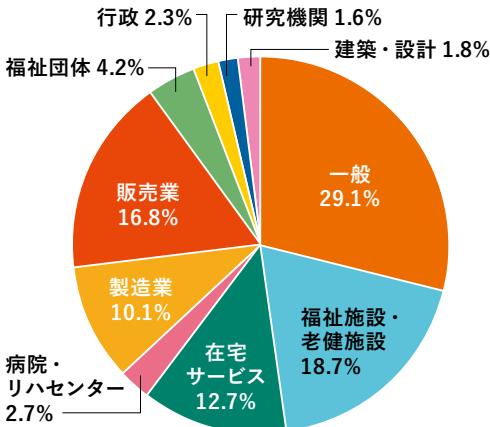
10月8日(水)9時40分より、東京ビッグサイト西ホールのアトリウムにてオープニングセレモニーを開催しました。主催者の村木 厚子 全国社会福祉協議会会長は、出展社や来場された方々への感謝の意を表するとともに、H.C.R.2025の開会を宣言しました。

来賓には、厚生労働大臣の代理として野村 知司 社会・援護局障害保健福祉部長やポスターのビジュアルデザインに携わったアーティストの流 麻二果(ながれ まにか)氏にも臨席いただき、記念のモニュメントの除幕により華やかに開幕しました。

2

来場者12万人超え

来場者数は、会期3日間で延べ121,137人を記録しました。来場者の業種別構成比を見ると、最も大きな割合を占めたのは昨年と同様「一般」で29.1%でした。次いで、「福祉施設・老健施設」が18.7%と続き、以下、「販売業」(16.8%)、「在宅サービス」(12.7%)、「製造業」(10.1%)の順となりました。総来場者数は昨年より約1,000人増加しており、特に「販売業」の割合が昨年から2.8ポイント増加した点が際立っています。



3

出展社数 414社・団体

出展社数は、リアル展・Web展あわせて国内外から414社・団体が出展しました。国内からは361社・団体、海外からは10か国1地域より53社・団体の出展がありました。

国名	社数	国名	社数
日本	361	英国	1
中国	24	フランス	1
台湾	9	スウェーデン	1
USA	7	ドイツ	1
韓国	5	イスラエル	1
デンマーク	2	オランダ	1

■感謝状贈呈式

10月8日(水)13:30～

H.C.R.2025で15回目の出展を迎えられた10社に対し、古都 賢一 保健福祉広報協会理事長より感謝の記念プレートを贈呈しました。

感謝状贈呈出展社(50音順)

- ◎株式会社エルエービー
- ◎花王株式会社
- ◎株式会社クreaクト
- ◎ジェイセップ九州有限会社
- ◎セパレーターシステム工業株式会社
- ◎株式会社セリオ
- ◎公益財団法人仙台市産業振興事業団
- ◎公益社団法人東京都理理学療法士協会
- ◎トリケアトプス／岡谷システム株式会社
- ◎株式会社ブルーオーシャンシステム

■製品別出展社

H.C.R.2025出展社のうち、取り扱い製品カテゴリー別の社数は以下の通りです。

移動機器(車いす等)	トイレ・おむつ用品	日常生活支援用品
手動車いす	ポータブルトイレ	自助具
車いす関連用品	便器、便座	障害者スポーツ・レクリエーション用品
電動車いす	防臭剤、消毒剤	介護関連用品
自転車	トイレ関連用品	日常生活支援用品(その他)
介助車	おむつ関連用品	フレイル介護予防関連機器
電動三輪・四輪車	自動排泄処理装置	介護等食品、調理器具
移動機器(杖、歩行器等)	衣類・着脱衣補助用品	食食用具、食器
歩行器、歩行補助車	衣類	調理器
杖	靴	高齢者・障害者向け食品
移動機器(リフト等)	コミュニケーション・ソフトウェア機器	施設環境設備、災害対応設備・用品
移乗補助機器	福祉電話・FAX、携帯会話補助器	福祉施設建築、福祉施設用床材・壁材
床走行リフト	視覚障害者用誘導システム	洗濯機、乾燥機、掃除機、脱臭機
固定式・据置式リフト	障害者用OA機器・ソフトウェア・操作補助具	いす、座位保持・立ち上がり補助用品
介助・歩行補助ロボット	コミュニケーション関連ロボット	家具、テーブル、洗面台
ストレッチャー等移動器具	コミュニケーション・ソフトウェア機器(その他)	キッチン
福祉車両、関連機器	センサー・見守り機器	介護職員用衣類
障害者用自動車運転装置	緊急通報システム	福祉施設環境設備・用品(その他)
車いす等用福祉車両	見守り機器	防災・避難用品
入浴用特殊車両	排尿予測支援機器	自家発電・蓄電装置
福祉施設等業務用自動車・エコカー	建築・住宅設備	再資源・水浄化処理機器
ベッド用品	スロープ	火災報知設備、自動消火設備
ベッド	手すり	感染症等予防用品
マットレス、床ずれ防止製品	段差解消機	空気清浄機、加湿器、消毒器
サイドテーブル	階段昇降機	福祉サービス向け経営・ケア管理システム
介護用シーツ	ベッド用品(その他)	福祉事業関係コンピュータシステム
ベッド用品(その他)	入浴用品	出版、福祉機器情報
浴槽	浴槽	福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送通信、福祉機器関連webサイト
入浴用チェア	滑り止め用品	14
浴槽台	浴槽台	
入浴用リフト	口腔ケア用品	総計
入浴用品(その他)	義肢・装具	550
	義肢、装具	

※H.C.R.Web2025掲載情報より抜粋

4

国際シンポジウム



2040年を見据え 介護保険制度の 持続可能性を考える

「2040年問題」を見据え、ドイツと日本の介護保険制度の課題と今後の方向性が議論されました。冒頭、塚田典子氏(日本大学商学部 特任教授)が日本の人口減少と超高齢化の進行を整理し、2040年には要介護者の増加や人材不足がさらに深刻化する可能性を提示しました。

ドイツ公私福祉連盟のアナ・ザラ・リヒター氏は、同国の介護保険制度30年間を経て、高齢化による要介護者の増大や介護人材不足、認知症患者の増加、財政の逼迫といった様々な問題が顕在化しており、対策として予防法に基づく自立支援、介護職の労働条件改善、国家認知症戦略などの取り組みが紹介されました。

香取 照幸氏(未来研究所臥龍代表理事)は、日本の介護保険が自立支援・選択・共助を理念とし、サービス水準の高さや公平性が評価されていることを紹介。一方で、高齢化に伴う重度化、独居高齢者の増加、人材不足が深刻化し、今後、外国人人材の受け入れや地域差を踏まえたサービス提供体制の構築が必須であると述べました。

ディスカッションでは、認知症施策、人材育成、在宅ケアの質の確保など両国共通の課題が確認されました。家族介護を前提とするドイツと公的に介護を提供する日本とは制度哲学は異なりますが、2040年に向け持続可能な介護保険制度を模索する必要性が共有されました。



5 セミナー

セミナーA

10月8日(水)

「合理的配慮」をより身近に～共生社会への山登り～
星川 安之 氏(公益財団法人共用品推進機構 専務理事)

地域における高齢者の移動支援”モビリティトレーニング「Goトレ」”
小柴 徳明 氏(一般社団法人SMARTふくしラボ プロジェクトマネージャー)

10月9日(木)

高齢者の社会参加とフレイル予防
近藤 克則 氏(千葉大学 予防医学センター 特任教授)

10月10日(金)

防災福祉最前線～イタリア式に学ぶ”いま”と”これから”～
鍵屋 一 氏(跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 まちづくり学科 教授)
古越 武彦 氏(特定非営利活動法人長野県NPOセンター 事務局次長)
森 美菜子 氏(大分県社会福祉協議会 大分県災害ボランティア・福祉支援センター 副所長)

**デフリンピックの歴史と魅力
そして、東京2025デフリンピックがめざすもの**
倉野 直紀 氏(一般財団法人全日本ろうあ連盟 デフリンピック運営委員会事務局長)

セミナーB

福祉に係る専門職のさらなるスキルアップをめざす「福祉機器の活用ステップアップ講座」をセミナーB会場で有料講演にて開催しました。合計131ページのセミナー専用のガイドブックを制作し、本セミナーに参加いただいた方に配布しました。在宅空間をイメージしたステージを使っの講師による実演を交えた講義は全7テーマとも好評で、延べ約600名が参加しました。



総論
石山 麗子 氏(国際医療福祉大学大学院 教授)
移動(杖・歩行器)編
加島 守 氏(高齢者生活福祉研究所 所長/理学療法士)
睡眠・ポジショニング編
加島 守 氏(高齢者生活福祉研究所 所長/理学療法士)
移動(車いす)編
堀家 京子 氏(公益財団法人 武蔵野市福祉公社 作業療法士)
食事編
増永 竜一 氏(のげ内科・脳神経内科クリニック 言語聴覚士)
排泄ケア用品 離床編
牧野 美奈子 氏(NPO法人日本コンチネンス協会 理事)
排泄ケア用品 ベッド上編
牧野 美奈子 氏(NPO法人日本コンチネンス協会 理事)
住宅改修編
橋本 美芽 氏(東京都立大学大学院人間健康科学研究科 准教授)



シーティングセミナー2025

～高齢者の24時間のポジショニングとシーティングの重要性～

高齢者の24時間を通じたポジショニングとシーティングの重要性について、デンマークのマレーネ・アレクサンドロウィッツ 氏(作業療法士)が講演を行いました。

マレーネ 氏は、姿勢管理が自立と尊厳を守る上で不可欠であると強調。適切な姿勢管理は呼吸改善や免疫向上にもつながり、QOLを大きく高めると述べました。事例として、脳卒中後の男性が体位管理により長時間座位を確保できたケース、揺れる椅子の導入で呼吸・睡眠・認知が改善した女性のケースを紹介。

最後に、最適なケアのためには職種間の連携が不可欠であり、共同アセスメントによる包括的な支援が重要と締めくくりました。



セミナーC

・身近なICT活用講座2025

日頃から活用しているスマートフォンやパソコンなどの情報機器や電子機器のほか、注目を集める生成AIを利用した製品等も含めて、障害のある人や高齢者の生活に活かすアイデア・工夫など、機器の実演も交えながら全8講義で紹介いただきました。



・施設のICT導入講座

福祉現場での支援の質向上と効率性の両立、ならびに利用者の生活の質向上に向けて、ICTの活用が一般的になるなか、実際の導入事例や効果、課題などを具体的に解説いただきました。

6 H.C.R.特別企画

O-MU-TSU MUSEUM at H.C.R.

[プロデュース]一般社団法人日本福祉医療ファッション協会

大阪・関西万博の「O-MU-TSU WORLD EXPO」で発表された今までにない斬新かつ革新的なおむつ15点の展示を行い、多くの来場者の視線を集めました。また、おむつメーカー8社にもブース参加いただき、各企業の開発状況や最新の製品情報も展示・説明いただきました。

おむつにおける多様で明るい選択肢を提案しつつ、すぐに実践・活用できる日常的な製品情報との両輪による展示は、排泄に課題を抱える方のみならず、さまざまな来場者にとって身近な課題として考えるきっかけにつながりました。



ランウェイショー「彩 -Color Your Life-」 [プロデュース] NUD.

“人生を彩る福祉機器”をコンセプトにしたランウェイショーでは、10名が颯爽と歩み、会場を沸かせました。

各日2回の公演はいずれも大盛況。最新の福祉機器を乗り越え、ネクストユニバーサルデザインが散りばめられた衣装を身にまとったモデルの登場に会場がどよめき、多くの来場者が衣装や福祉機器のかっこよさに見入る様子が印象的でした。モデルがマネキンとなるインスタレーション形式での展示スタイルも、得られる情報の深まりと、福祉機器をより自分事として引き寄せ、生活を彩る機器へと意識が変わるきっかけにつながる機会となりました。



アトリウムステージ／ポジティブラジオHCR



西ホール1階に位置するアトリウムでは、来場方向正面にステージを構え、音楽ライブやさまざまな業種による福祉の魅力発信、学生によるプレゼンなど、多様なイベントでH.C.R.を盛り上げました。

また、アトリウムステージ脇の配信ブースでは、リアル展示会の場内様子や出展企業・企画の紹介など、開場時間いっぱい、毎日生配信でポジティブラジオをお届けしました。おたよりの投稿も紹介し、福祉に対する熱い想いに触れるとともに、会場に来ることのできない方も声で参加できる、リアルとオンラインをつなぐ絶好の機会となりました。

ステージとラジオはアーカイブ配信中！ ぜひ当日の熱気を感じてください！



ふくしの魅力発見ゾーン

若者が福祉へかかわるきっかけにつなげるために、福祉現場で働く若手職員の経験や想い、日々の様子を巨大パネルと動画で紹介しました。また、パネルに採用した職員も会場に登場し、福祉現場のリアルな疑問を直接質問できる場面も。給与、休み、職場環境といった学生からの率直な質問に真摯に答えつつも、等身大の福祉の魅力を発信する職員の姿と、熱心に聞き入る学生の姿が印象的でした。福祉の多様な役割と働く人の想いに触れる展示となりました。



“もしも”に備える防災展



災害時に活用できる製品を一挙に展示しました。実物の展示だけでなく体験や試食も行われ、福祉×防災の知識を学ぶ機会となりました。

特に、地震の揺れを体験できる起震車には常に長蛇の列が見られ、日ごろの備えに対する関心の高さが伺えました。

エンジョイアクティブゾーン



年齢、性別、障害の有無を越えて誰でも一緒に楽しめる競技として、障害者サッカー(デフサッカー・電動車椅子サッカー・ブラインドサッカー・アンプティサッカー)、バリアフリーe-Sports、モルックの体験を実施し、連日多くの参加者で賑わいました。

また、「障害当事者が世界で活躍するバリアフリーe-Sportsのいま」と題したトークショーもアトリウムステージで開催し、大画面で行われる実際のプレーに会場は大いに沸き、障害者スポーツへの理解を深めました。

福祉機器開発最前線

研究・開発中、または販売まもない最先端の技術や製品を9社・団体からのご協力のもと12製品展示しました。今年は万博で展示された最新のモビリティや、ハンズフリー車いすなどクリエイティブな未来を拓くにふさわしい技術が集まりました。



BOVLIFE株式会社	・メガネ型拡大読書器Assistive Technology(AT)機能付きARウェアラブル
glafit株式会社	・四輪型特定小型原動機付自転車 ・電動サイクルNFR-01 Lite
Humonii	・Feeling
PLIMES株式会社	・摂食嚥下管理パッケージGOKURI®
TOPPAN デジタル株式会社	・RemoPick®
Vision Labs株式会社／関西学院大学	・眼球運動検査・トレーニングシステム
キリンホールディングス株式会社	・エレキソルト スプーン ・エレキソルト カップ
株式会社イル	・みまもり イル！
富士通株式会社	・エキマトペ ・Antenna

福祉施設における音環境を考える展示 [協力] 株式会社ハイパーソニック研究所

人間の耳に聴こえない高い周波数の成分を豊富に含む音が、心身にとってポジティブな効果がもたらされること(ハイパーソニック・エフェクト)を体感いただくために、ハイパーソニックで満たされた個室空間を会期中常時展示し、実際にその効果を体感いただきました。

にぎやかな展示会場とは対照的に植物や環境音あふれる穏やかな空間が流れ、ブースを訪れた来場者は高周波の心地よさに浸りつつも、日常における音環境への配慮についても深く考える契機となりました。



全ての機器(モノ)は、合理的配慮から ～一人の便利が、みんなの便利に～ [協力] 公益財団法人共用品推進機構、杉並区

東京都杉並区と共用品推進機構がまとめたガイドブックをもとに、合理的配慮のポイントを解説するとともに、配慮が一般化した機器・製品の展示を行いました。



子ども広場

[協力] 社会福祉法人慈愛会、東京都、一般社団法人星つむぎの村

障害の有無にかかわらず遊べる遊具の展示や、医療的ケアが必要な子ども達も自分の身体を動かして楽しむ体験を実施しました。身体を動かす体験では医療的ケアの専門家が見守るなか、数多くの子供達で賑わい、元気いっぱい楽しそうに遊ぶ様子がみられました。2025年度の子ども広場の体験の様子は動画で公開していますので、ぜひQRコードからご覧ください。



また、座った状態・寝そべった状態でも見ることでできる出張プラネタリウムを実施。各時間帯ともほぼ満員の状態で、リラックスした空間を作り出しました。

ほかにも障害のある子ども向けに特化したコミュニケーション機器や、学びをサポートする学習支援機器など、ICTに特化した総合展示やミニセミナーを開催しました。



もっと知って! ほじょ犬

[協力] 一般社団法人日本身体障害者補助犬学会

障害のある方の自立と社会参加を手助けし、生活のパートナーともなるほじょ犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）について、パネル展示での紹介のほか、専門スタッフによる普段の働きのデモンストレーションなど、ほじょ犬の種類や働きぶりを理解するコーナーとなりました。



福祉用具相談

[協力] 一般社団法人日本作業療法士協会、NPO法人自助具の部屋

食事や家事、更衣など日常生活で身近に使用するさまざまな自助具の展示、3Dプリンターによる制作事例の展示や紹介、また会期中の2日間では自分で制作体験ができる自助具の制作体験なども行いました。同じブース内では専門家となる作業療法士等から日常生活に係る福祉機器の相談対応を実施し、その場で自身の困りごとに合った自助具や機器の提案を受けられるなど、より福祉用具・機器に理解が深まる場となりました。



セルフカフェ&ショップ

[協力] 認定NPO法人日本セルフセンター、NPO法人ヒールアップハウス 晴れ晴れ、NPO法人障害者自立支援センター多摩 ワークセンターれすと

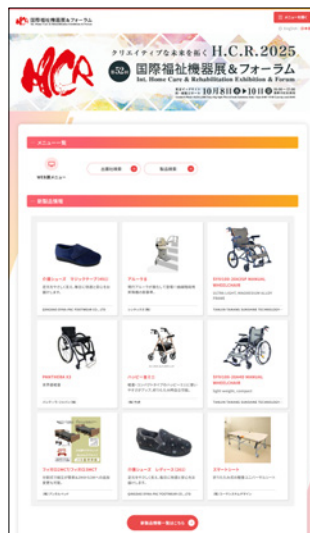
パンや飲み物、井などの軽食を販売し、ほっと一息つける場としてご利用いただきました。

また、全国各地の社会就労センター等で製造された製品も販売し、商品選びを楽しみながら購入する様子が見られました。



7

Web展情報



H.C.R.2025 Web展では、出展社約300社と、1,200点以上の各社の製品情報を掲載しました。出展社検索ではカテゴリ検索や各社への問い合わせ機能、製品検索ではカテゴリ検索や機能での検索、キーワード検索の項目を設け、個人の用途にあわせて機器が検索できる仕様といたしました。また、今年は新たにマップ検索機能を追加し、出展社を検索するとマップ上のどのあたりに位置するか確認できるようになり、リアル展での会場内も巡りやすくなりました。リアル展の終了後も会場内で実施したセミナーのアーカイブ映像の配信を行い、遠方への移動が難しく展示会場へ来られなかった方へも情報を公開いたしました（一部講演はチケット購入者のみに配信）。

なお、福祉機器製品情報の発信に資することを目的として、出展社検索および製品検索については

3月31日(火)まで継続して一般公開予定です。※公開内容は2025年度の出展社・製品情報となります



←閲覧はこちらのQRコードより

8

出展社プレゼンテーション

製品紹介や事例紹介、機器導入に向けたポイント解説など、出展社21社がプレゼンテーションを実施しました。また、その様子をWeb展にアーカイブ映像として公開しました（一部出展社を除く）。

9

広報・PR活動

H.C.R.2025の開催を広く周知するため、昨年の来場者・出展社の意見や感想をもとにしたH.C.R.PR動画を制作し、公開しました。また、出展社や福祉関係施設・団体、マスコミや福祉に関わる学校・病院、またこれまでご来場いただいた方やWeb展登記者へポスター約4,000枚、DMリーフレット約22万通を制作するとともに、メールマガジンを約6万人に向けて6本の配信を実施しました。ほかにも、業界紙への広告掲載を行ったほか、1年中通して本会Facebook・XといったSNSでの情報発信、入場登録の開始後にはInstagramも加え広報活動を行い、いままでは異なる年齢層にも展示会への来場を呼びかけました。

さらに、マスコミ関係者などに向け、保健福祉Newsの発行やプレスリリースの配信を通じ、関連記事情報の提供や取材の案内を行ったところ、会期前後にテレビ局などを含む500件を超えるプレス取材がありました。

	テレビ	新聞・雑誌	Web	件数合計
会期前(～10/7)	0件	12件	393件	405件
会期中・会期後(10/8～)	5件	17件	117件	139件
合計	5件	29件	510件	544件

10

来場・移動支援や情報保障の取り組み

会場内の移動に不安がある来場者に対して「車いす・移動支援機器貸出コーナー」を2か所(西ホール、南ホール)に設置し、6社9製品の車いす等を貸し出しました。

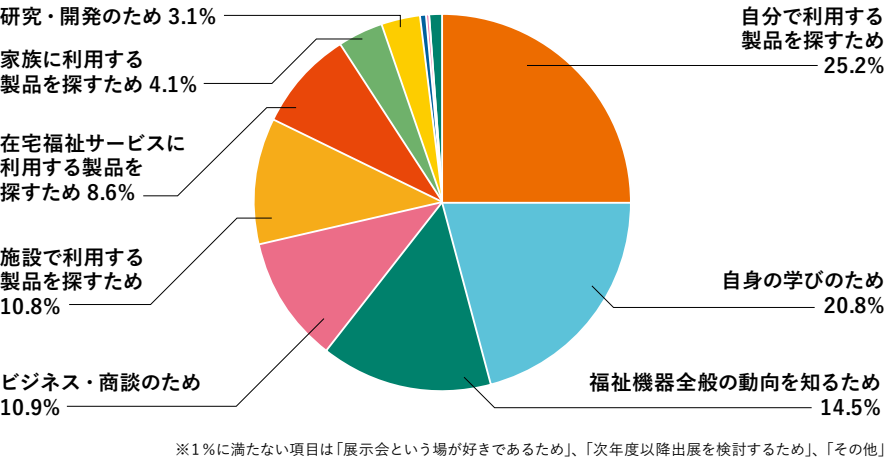
障害のある方や歩行に困難がある方などを対象とする専用駐車場(南立体駐車場ほか)を確保するとともに、国際展示場駅と会場をつなぐ巡回バスを用意し送迎を行いました。

手話通訳とガイドヘルパーの常時配置に加え、自身のスマートフォンを利用して手話通訳が利用できる「遠隔手話サービス」をご用意しました。

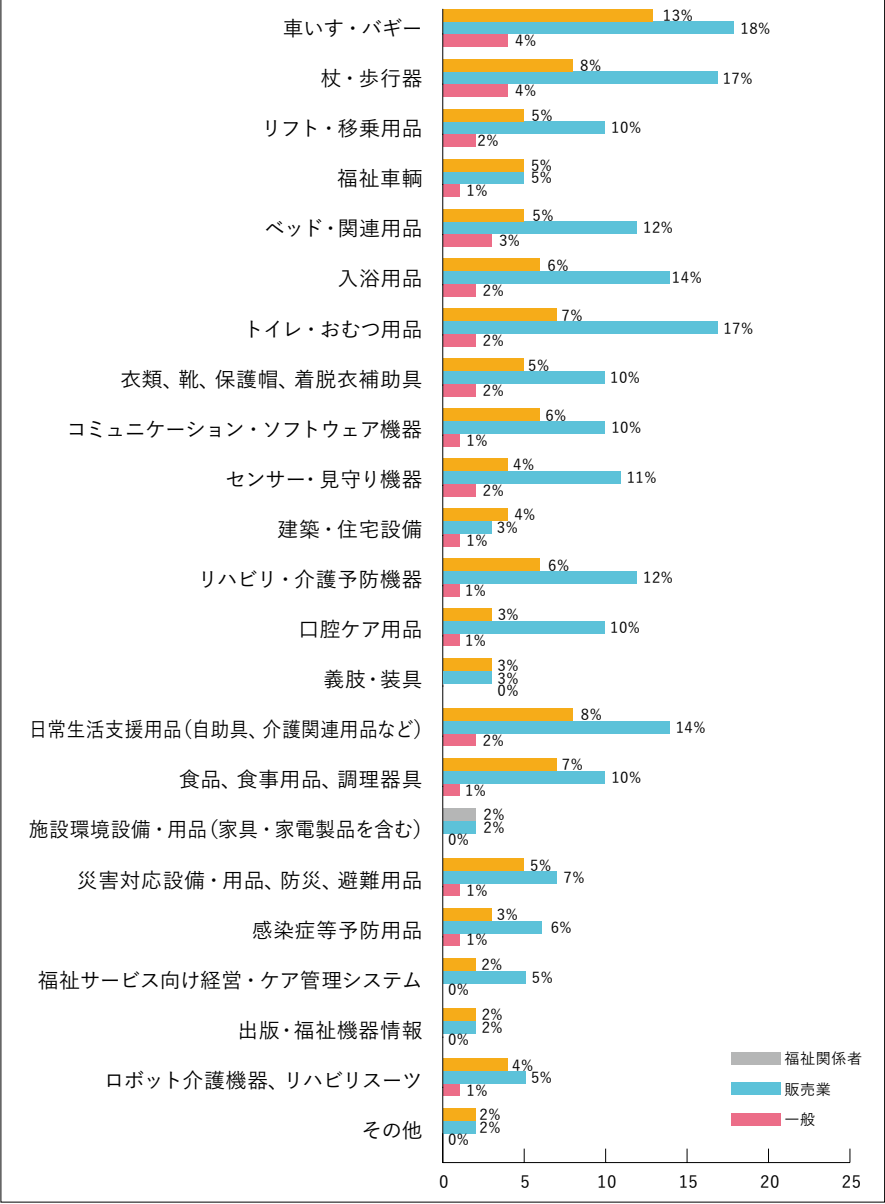
スタンプラリーや会場マップ、プッシュ通知など、展示会場内での見学を快適にお楽しみいただけるアプリも実施し、リリース以降累計約40,000件を超えるダウンロードを得ました。

11 来場者アンケート結果 [回答数 2,542件]

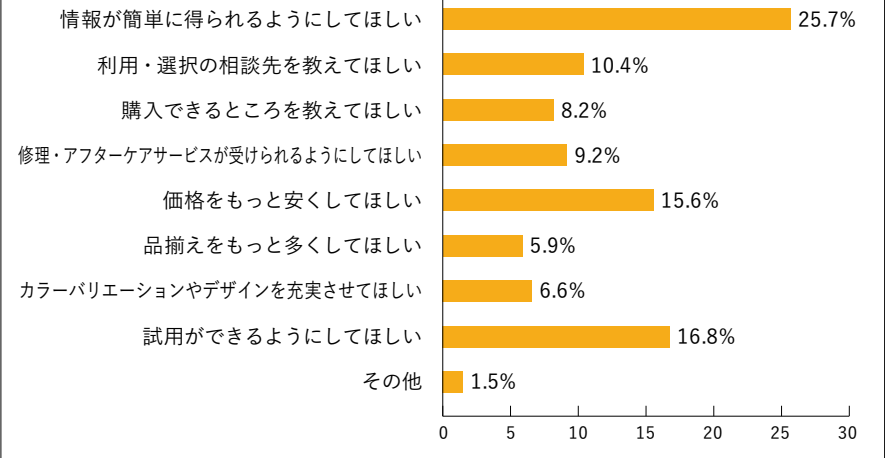
① H.C.R.2025への来場の目的



② お探しの製品の種類[複数回答]



③ 福祉機器の利用についてのご要望[複数回答]



④ 福祉機器製品の開発や販売に係るご意見・ご要望 (フリーアンサーを一部抜粋)

- ・企業の大きさに問わず参加していて、狭いニーズにも答えてもらえるのが多く、参考となる製品が見れた。
- ・実際の製品が試すことができ、サンプルなどももらえるのが良い。
- ・展示会にきて、欲しい車いすが決定した。
- ・最新の製品や技術(AI・ロボット等)に関する展示に驚きと感動があった。
- ・多種多様な製品が一堂に会しており、自身の知らない新しい情報や機器を知る貴重な機会となった。
- ・食品系の展示が増えると良い。
- ・児童(発達障害)のケアに役立つ製品や情報があるといい。
- ・介護用の製品だけではなく、障害者用の製品も増えて欲しい。
- ・排泄ケア用品(オムツ)をもっと展示してほしい。
- ・展示内容が毎年同じようなものが多く、目新しさに欠けると感じた。
- ・展示内容が企業や施設向けに偏っており、個人・一般の来場者が利用しにくいと感じた。

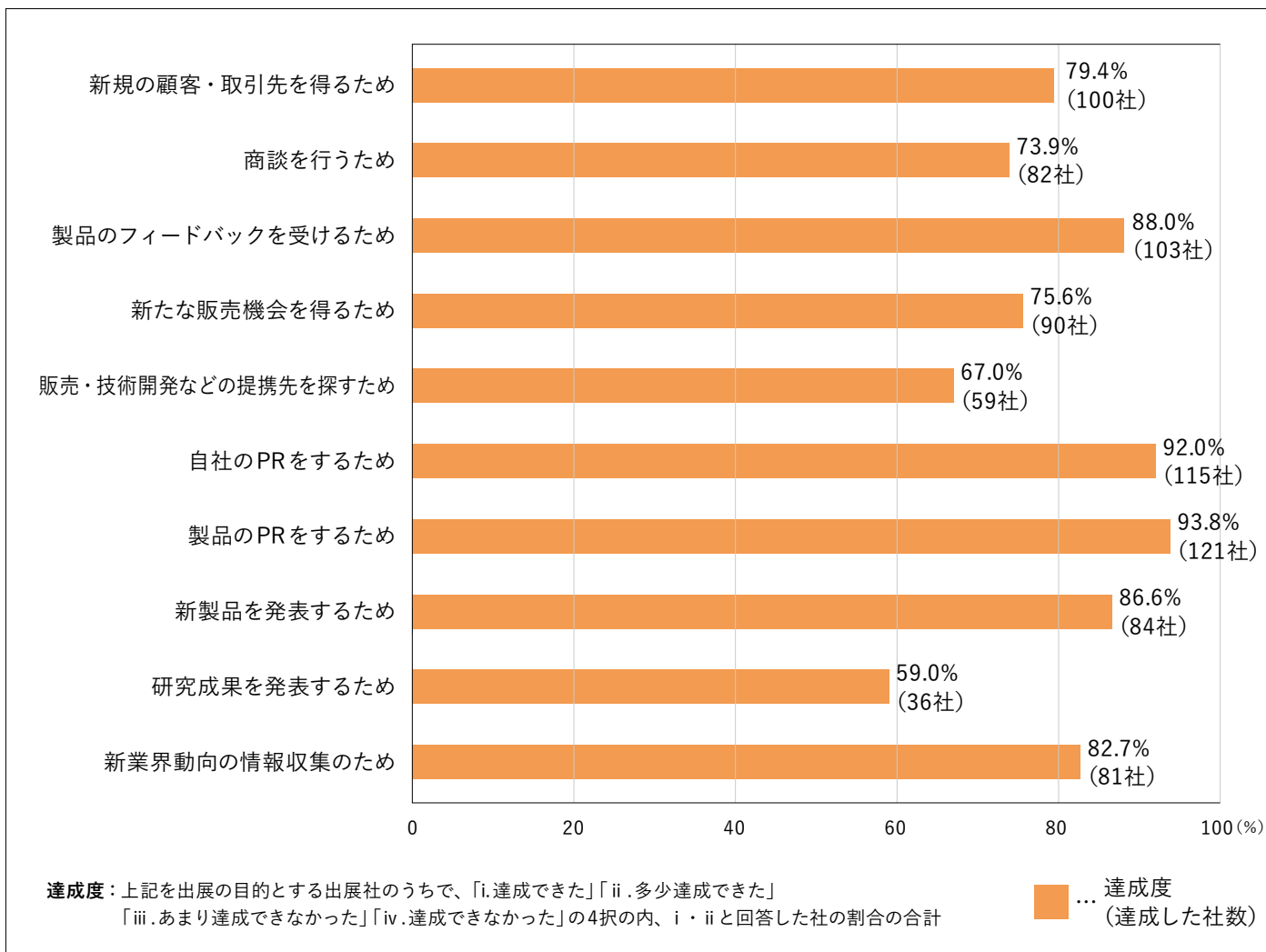
⑤ H.C.R.に関するご意見・ご要望 (フリーアンサーを一部抜粋)

- ・出展数が多い、イベントが多い、最新の情報が得られる。
- ・色々な製品や利用者、メーカーがあるのだと勉強になった。
- ・アジア最大規模の展示会なので新商品をみれる。今後ほしい商品を直接伝えることができた。
- ・自分の知らない機器や、最近の福祉におけるニーズを知ることが出来た。
- ・直接メーカーの人から話が聞けるので、勉強になった。
- ・久しぶりに展示会に参加して、製品の進歩のめざましさに感動した。
- ・新しい商品をみて導入を検討したりできる。クッション等は色々試すことができた。
- ・製品を体験する機会が多いのがよい。体験できる箇所をもっと増やしてほしい。



12 出展社アンケート結果 [回答数 133件]

① H.C.R.2025への出展の目的と達成度[複数回答]



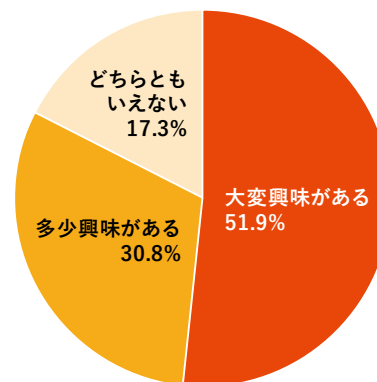
② ご来場者からの声や反応で印象的だったこと

- ・事業発足から30周年となり、長くから付き合いのあるユーザーとの会話や過去の振り返り話が出来た。
- ・「こういうワクワクする商品を探してた!」というお声をたくさんいただきました。
- ・「便利だが知らなかった」、「気になっていたが使ったことがなかったので実物を試す機会ができてよかった」というご感想をいただきました。
- ・視覚障害当事者と同行者(母親)が、弊社の製品の装着デモ体験をして、感動のあまり涙を流されていた。体験された当事者さんからは「希望」「頼みの綱」という言葉も何度もお聞きした。
- ・新商品はありますか?など新しいものを期待しての来場。
- ・商品をすごいといわれ、20年以上前から作ってますと言って、さらに驚かれたこと。
- ・弊社製品を知らない方が多かったが、ほとんどの方が満足した体験をされていたが、障害者の方で車いすの方も大変楽しそうに体を動かして運動されていたのが印象的でした。
- ・出展企業の販売代理店になりたいとの商談があった。
- ・開発中のアイテムについて「今まさに困っているのですぐ欲しい」とお声がけを多数いただきました。
- ・とにかく反響の多いイベントで、常にブースに人が溢れ、スタッフから「楽しかった」という声がもたらえた。

③ 次回H.C.R.2026に寄せてのご意見・ご要望

- ・来場者が増え、その場で問題解決が出来るような相談の場である事、有意義な展示会であり続ける事を期待します。
- ・これまでの出展形態とは異なる方法で、出展できるような検討をして欲しい。
- ・展示会があまり知られていないので、来場者にむけて周知と広報に力を入れて欲しい。
- ・セミナー内容含め、生産性向上といったテーマの見直しを行っても良いのではないかな。

④ H.C.R.2026への出展予定



計82.7%の出展社に「次回出展に興味あり」と回答いただきました。

